全天候型測定データ記録装置
KADEC21シリーズ

Eメール対応　電圧積算入力　KADEC21-UP-N2

取扱説明書

ノースワン株式会社

はじめに

このたびは、Eメール対応全天候型測定データ記録装置「KADEC21-UP-N2」をお買い求めいただき誠にありがとうございます。KADEC21-UP-N2は、KADEC21-UPの標準機能にEメールデータ通信機能を追加したモデルです。アナログ積算回路で初めてプラスからマイナスまでの電圧入力に対応していますので、放射収支センサも１台で簡単に記録できます。

特　徴

○プラス、マイナス電圧に対応した入力積算回路内蔵
○記録計の標準電池で１年以上の連続測定（１０分間隔測定）
○観測データを複数のメールアドレスに送信可能
○通信モジュールを内蔵
○簡易GPS情報を利用して位置情報を送信可能
○簡易警報メールを携帯電話等にも送信可能
○内部電池だけで1年間データ送信可能
○小型コンパクト設計で長期間連続測定
○ＬＣＤ表示器で現場での調整・確認が容易
○－２５℃から８０℃の耐環境性仕様
○測定中でも設定変更/データ回収(通信)/記録データ確認ができる
○各設定(日付/時刻/メモ/各調整等)が記録計単体で操作が可能
○タイマーの進み遅れ時間を調整するＲＴＣアジャスト機能装備
○各データごとに測定日付時刻も合わせて記録
○電池残量レベルメーター機能搭載
○記録データのメモリバックアップ電池が不要
○プレタイマー機能、アフタースタート機能標準装備
○市販のカメラ用電池（CR123A）が使用できる
○各設定をリモートにより確認・変更が可能
○OTA機能により通信開始・休止が可能

目　次

１.各部名称と操作概要
２.センサの接続方法
３.通信回線について
４.各設定および表示処理
５.各標準機能
６.動作電池の交換
７.機器仕様
８.概観寸法図

ご注意及びお願い

※本説明書の内容の一部または、全部をコーナシステム株式会社の許可なく無断転載することは、禁止されています。
※本説明書の内容に関して予告なく変更することがあります。
※本説明書の内容について、ご不明な点等おきずきのことがございましたらコーナシステム株式会社へご連絡ください。
※運用した結果の影響につきましては、前項に関わらず責任をおいかねますのでご了承ください。
※ＫＡＤＥＣはコーナシステム株式会社の登録商標です。
※ＭＤ-ＤＯＳシステムは、米国マイクロソフト社の登録商標です。

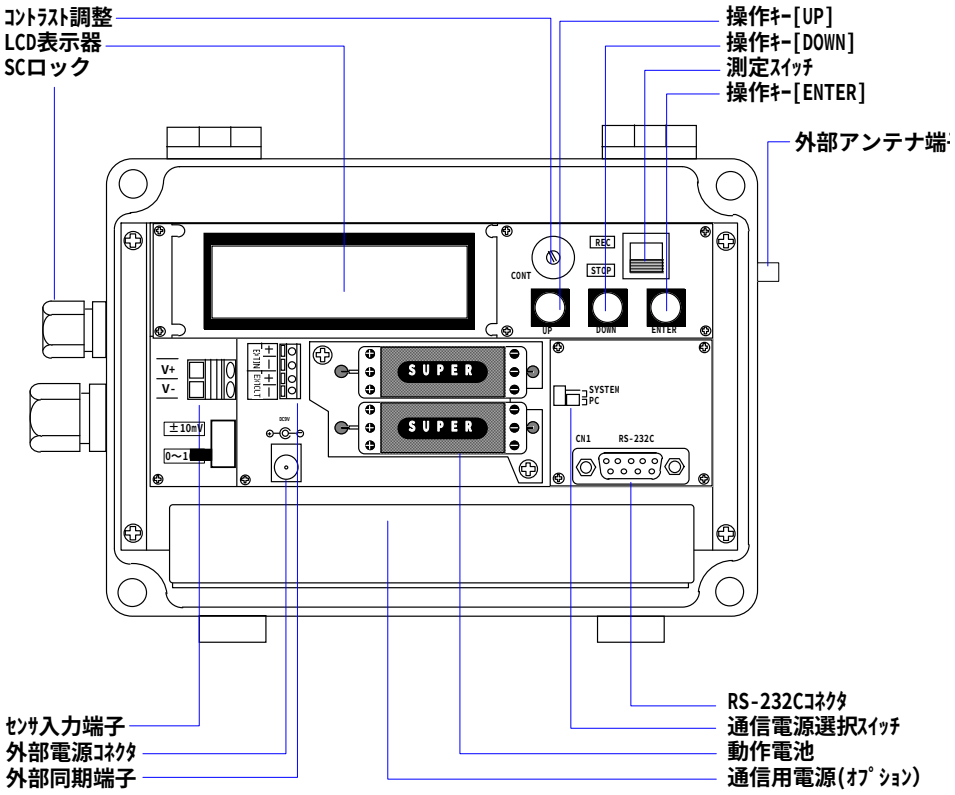
ノースワン株式会社
〒001-0025　札幌市北区北２５条西１３丁目１－２８
TEL.011-708-0230 FAX.011-708-0232
http://www.north-one.net/

改定日　２００９年02月24日

１.各部名称と操作概要

１－１.各部名称

操作キー[UP][DOWN]	各処理項目の選択および設定値を選択するキーです。
操作キー[ENTER]	各処理項目の決定するキーです。
測定スイッチ	測定開始および測定終了（待機）のスイッチです。
ＬＣＤ表示器	データ、動作状態、電池の残量などを表示します。
コントラストｶﾄ調整	LCD表示器のコントラストを調整するボリウムです。
センサ入力端子	各種センサを接続する端子です。
通信電源選択スイッチ	RS-232C動作電源を記録計またはパソコンから供給するかを選択するジャンパースイッチです。
RS-232Cコネクタ	パソコン、モデムなどと通信するためのコネクタです。
ＳＣロック	センサケーブルを本体内部に通す防水性の高いコネクタです。
外部電源コネクタ	動作電源を外部から供給する端子です。記録計の電源電圧は、DC6～9Vの範囲のＡＣアダプタを使用してください。DC9V以上鉛蓄電池等を使用するときは、専用のDCDCコンバータ（別売）をご使用ください。
外部同期端子	計測するタイミング信号を入出力する端子です。
動作電池	データ記録動作ための電池です。
入力切替スイッチ	電圧積算入力値を切り替えるスイッチです。
外部アンテナ端子	外部アンテナを接続する端子です。



１－２.操作概要

（１）測定開始および終了

測定スイッチを[REC]（図面上の左側）にしますと各設定された条件で測定開始します。[STOP]にしますと測定終了（待機状態）となります。

＜工場出荷時の設定状態＞

・測定インターバル　　：１時間
・プレタイマー機能　　：ＯＦＦ
・アフタースタート機能：ＯＦＦ
・通信速度　　：３８４００ｂｐｓ
・ネットインターバル　：24時間

（２）各設定操作

操作キーを押しますとＬＣＤ表示器にメッセージが表示します。[UP]または[DOWN]キーを操作して処理メニューを選択し[ENTER]キーを押します。設定値および表示内容の変更は、[UP]または[DOWN]キーを操作し、[ENTER]キーで決定します。

※測定中でも設定変更は可能です。
※キー操作を９０秒以上ないときは、ＬＣＤ表示の表示は自動的に消えます。
※キー操作は、通信ソフトでも同様に操作できます。

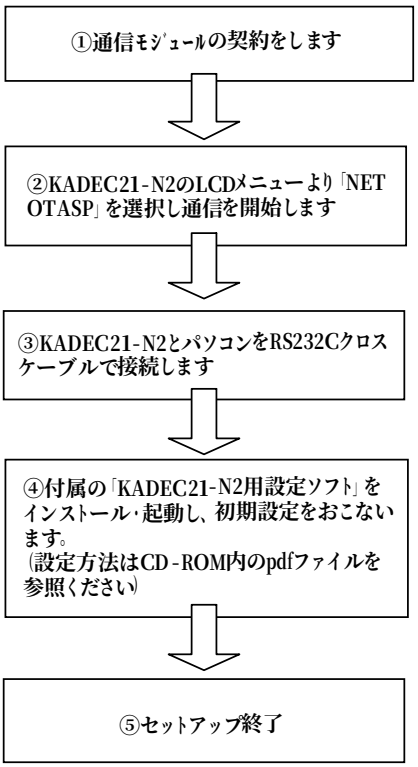
（３）通信およびデータ回収

ＲＳ－２３２Ｃコネクタに通信ケーブルを差し込んで、パソコンに接続します。次に通信ソフトを起動して、データの回収や各設定操作を行ってください。

※データ回収や各設定操作は、測定中でも実行できます。

（４）運用までの手順概要

ネットモデル2を運用するための手順は次のとおりです。

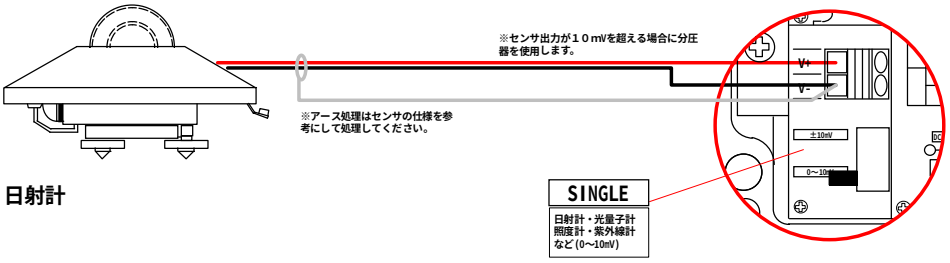


２.各機器の接続

KADEC21-UP-N2と光センサと接続方法は次の配線図を参照して接続してください。センサケーブルは大きい方のＳＣロックをとおして各端子に接続します。接続後、正しく結線されているかどうかをメニューの入力モニタにして確認します。（「各設定および表示処理について」を参照）また、使用するセンサによっては配線の色が異なる場合が有りますので、センサの信号線の内容と同等の信号線を端子に接続してください。

○プラス電圧（０～１０mV）入力

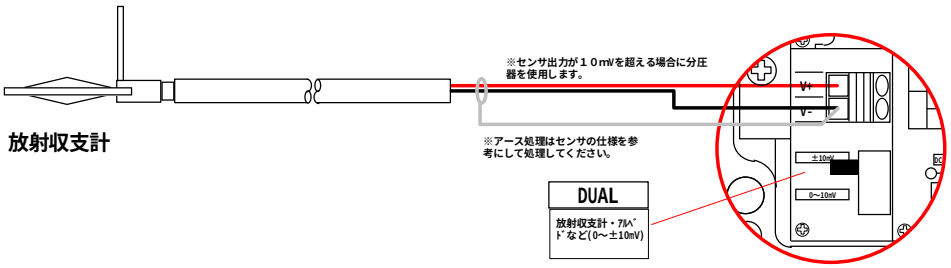
日射計などのプラス電圧出力のセンサで積算電圧測定をする場合は、入力切替スイッチの位置を「０～１０mV」にします。センサの出力が１０mVを超えるときは、センサと記録計の間に分圧器を入れてください。



日射計

○プラスマイナス電圧（－１０～＋１０mV）入力

放射収支計などのプラスマイナス電圧出力のセンサで積算電圧測定をする場合は、入力切替スイッチの位置を「±１０mV」にします。



放射収支計

３.通信回線

３－１.シリアル通信

（１）RS-232Cの概要

記録計には、モデムまたはパソコンと接続して、データ回収や各設定を行なうためのＲＳ－２３２Ｃシリアルインターフェイスが標準装備しています。測定状態でも、データ通信はできます。ＲＳ－２３２Ｃの設定仕様は、次ぎのとおりです。また、記録計とモデム、コンピュータと接続するときの信号ケーブルは異なりますので注意してください。モデムのときは、モデムに付属のケーブル（ストレートケーブル）を使用してください。コンピュータのときは、クロスケーブルを使用してください。また、USBポートしか無いときは、市販のUSB-RS232C変換ケーブルも有りますので、予めご相談ください。

オートＯＦＦ機能

記録計を通信状態のままで９０秒以上コマンドまたはデータのやりとりがない場合、自動的に通信状態を無効にします。この機能は、モデム使用時に通信を切断しわすれたとき、記録計側で永遠の接続状態にならない為の機能としてオートＯＦＦ機能があります。

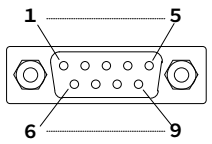
（２）通信仕様

ＥＩＡ-５７４規格に準拠した９ピンのコネクタを用意しています。測定状態でも、データ通信はできます。ＲＳ－２３２Ｃのピンコネクションは、表の通りです。ＲＳ－２３２Ｃの設定仕様は、次ぎのとおりです。コンピュータと接続して使用するときに、コンピュータ側を次ぎの様に設定してください。

項　　目	内　　容
通信形態	全二重非同期モード
転送速度	300、600、1200、2400、4800、9600、19.2K、38.4K、57.6K、115.2KBPS
データ長	8ビット
パリティビット	NONパリティ
ストップビット	1ビット
ＸＯＮ／ＯＦＦ	XON制御
ターミネイタ	CR、LF
コネクタ仕様	DB-9S

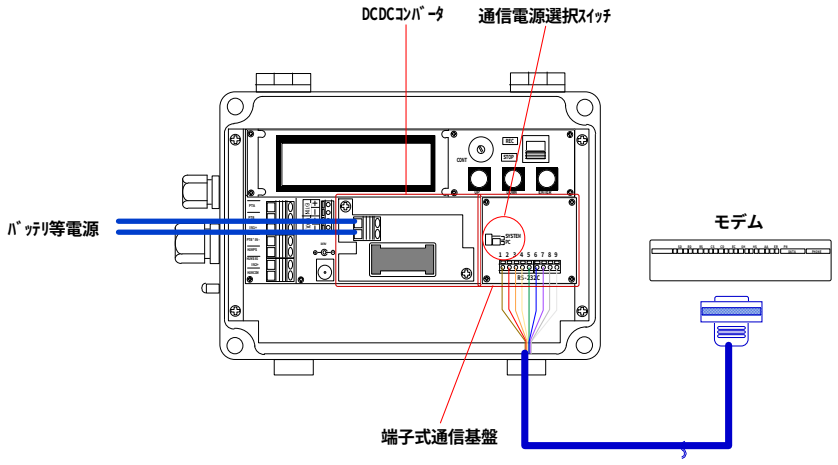
ピン番号	略　号 JIS	略　号 EIA	信　号　の　意　味 日　本　語	信　号　の　意　味 英　　語	方向
1	CD	DCD	キャリア検出	Data Carrier Detect	入出力
2	RD	RXD	受信データ	Receiving Data	入力
3	SD	TXD	送信データ	Sending Data	出力
4	ER	DTR	端末レディ	Data TerminalReady	出力
5	SG	GND	信号用アース	Signal Ground	
6	DR	DSR	データセットレディ	Data Set Ready	入力
7	RS	RTS	送信要求	Request To Send	出力
8	CS	CTS	送信可能	Clear To Send	入力
9	RI				

ピン配列



（３）モデム通信

KADEC21シリーズの記録計は、RS-232Cコネクタに直接モデムを接続して、一般電話回線を使用することができます。このときの使用図例は下図のとおりです。モデムを使用して常時通信するときは、通信電源選択ｽｲｯﾁのジャンパーピンをＰＣ側に移動させてください。ＲＳ－２３２Ｃコネクタをとおして電源を供給することが難しい場合のみ、SYSTEM側にします。この場合、記録計の動作電池から供給されます。



４.各設定および表示処理

４－１.表示メニュー

各処理メニューを選択して実行する場合、操作キーを押しますと、表に示す順に表示が変化します。表示している処理を実行するときは、[ENTER]キーを押します。次の処理メニューに変更するときは[UP]または[DOWN]キーを操作します。

（１）キー操作時の表示

メニュー項目	表示例	操作スイッチ	動作内容
オープニング	KADEC21 Series North−one		キー操作待ち
ROMバージョン	ROM Version UP4.0 2008／05	[UP][DOWN] [ENTER]	表示のみ
日付	Date 01／10／09	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
時刻	Time 11：22：33	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
インターバル	Interval 1min	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
プレタイマー	Preset Timer OFF	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
アフタースタート	After Start 00／00 00：00	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
通信速度	COM Speed 38400bps	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
入力モード	Mode ch 1 Integratn	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
入力モニタ	Monitor ch 1 +07.89mV	[UP][DOWN] [ENTER]	表示のみ
記録データ	Data 18→11：22：00 ch 1 +07.89mV	[UP][DOWN] [ENTER]	表示のみ
RTCアジャスト	RTC Adjust 25	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
メモ	Memo 1 Kadec（メモ1）	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／変更
電池残量	BATT [_____■■■■■]	[UP][DOWN] [ENTER]	表示／残量ﾘｾｯﾄ
出荷時設定呼出	Default Setting Yes, No	[UP][DOWN] [ENTER]	変更のみ
通信契約開始	NET OTASP	[UP][DOWN] [ENTER]	通信開始実行
通信契約休止	NET OTAPA	[UP][DOWN] [ENTER]	通信休止実行
モジュールシリアル	Module Serial 8ALDD000000	[UP][DOWN] [ENTER]	表示のみ
ネットインターバル	NET Interval OFF	[UP][DOWN] [ENTER]	ネット回収実行
ネット通信テスト	NET Test	[UP][DOWN] [ENTER]	ネット通信実行

測定開始	Recording start interval 1min	測定スイッチ [REC]	表示のみ
測定終了	Recording stop Count 15564	測定スイッチ [STOP]	表示のみ

４－２.各メニュー操作

（１）日付の変更
①メニュー項目の「Date」を表示させます。
②[ENTER]キーを押すと年、月、日の順で点滅します。
③年月日の正しい数値を[UP][DOWN]キーで設定します。
④「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

（２）時刻の変更
①メニュー項目の「Time」を表示させます。
②[ENTER]キーを押すと時、分、秒の順で点滅します。
③時分秒の正しい数値を[UP][DOWN]キーで設定します。
④「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

（３）インターバルの変更
①メニュー項目の「Interval」を表示させて、[ENTER]キーを押します。
②[UP][DOWN]キーで目的のインターバル時間に合わせます。
③「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
※インターバルの設定可能な時間は、基本仕様を参照してください。
※「EXTin」は、外部同期測定です。外部同期入力端子を参照してください。

（４）プレタイマー機能の設定、変更
①メニュー項目の「Preset Timer」を表示させて、[ENTER]キーを押します。
②[UP][DOWN]キーで目的のプレ時間または「OFF」に合わせます。
③「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
※プレタイマーの設定可能な時間は、１～５９分の１分きざみです。
※プレタイマー機能については、プレタイマー機能を参照してください。

（５）アフタースタート機能の設定、変更
①メニュー項目の「After Start」を表示させます。
②[ENTER]キーを押すと月が点滅します。
③測定を開始したい月を[UP][DOWN]キーで設定して、[ENTER]キーを押します。
④測定を開始したい日を[UP][DOWN]キーで設定して、[ENTER]キーを押します。
⑤月日設定と同様な操作で時分を設定します。
⑥「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

（６）通信速度の変更
①メニュー項目の「COM Speed」を表示させて、[ENTER]キーを押します。
②[UP][DOWN]キーで目的の通信速度に合わせます。
③「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
※通信機能については、通信機能を参照してください。

（７）入力モードの変更
①メニュー項目の「Mode」を表示させて、[ENTER]キーを押します。
②[UP][DOWN]キーで目的の入力チャンネルに合わせ、[ENTER]キーを押します。
③[UP][DOWN]キーで目的の入力モードに合わせ、[ENTER]キーを押します。
④「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

※入力モードの表示と意味は次のとおりです。

Disable	：入力しない
Volt	：電圧入力（DC０～±１０mV）
	：積算電圧入力（DC０～１０mV）
	：積算電圧入力（DC０～±１０mV）

（８）入力モニタの表示

①メニュー項目の「Monitor」を表示させます。

②表示チャンネルを変更するときは、[ENTER]キーを押して、表示したいチャンネルを[UP][DOWN]キーで設定して、[ENTER]キーを押します。

（９）記録データの表示

①メニュー項目の「Data」を表示させます。

②現在表示中データは最新の記録データです。

③さかのぼって記録データを表示するときは、[DOWN]キーを押します。

（１０）RTCアジャストの変更

①メニュー項目の「RTC Adjust」を表示させて、[ENTER]キーを押します。

②[UP][DOWN]キーで目的のRTC値に合わせ、[ENTER]キーを押します。

③「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

※RTCアジャストについては、RTCアジャストを参照してください。

（１１）メモの変更

①メニュー項目の「Memo」を表示させます。

②[ENTER]キーを押して、メモ１から６のいずれかを選択して、[ENTER]キーを押します。

③メモの内容を変更するときは、１文字ずつの変更となります。

④１文字づつ[UP][DOWN]キーを操作して、[ENTER]キーを押します。

⑤「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

（１２）動作電池残量の表示、リセット

①メニュー項目の「BATT」を表示させます。

②内蔵バッテリの残量が表示します。

③動作電池残量をリセットするときは、[ENTER]キーを押します。

④[UP][DOWN]キーを操作して、動作電池の種類を選択し、[ENTER]キーを押します。

⑤「BATT RMIN RESET? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

※動作電池の残量リセットは、動作電池交換以外行わないでください。

※使用できる動作電池は、リチウム電池パック（KDC-B6）または、カメラ用電池ホルダを使用した二　酸化マンガンリチウム電池（KDC-B1）のいずれかです。

（１３）出荷時設定

①メニュー項目の「Default Setting」を表示させます。

②[ENTER]キーを押しますと、「Yes,No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

４－３.ﾒｰﾙ送信設定方法

（１）Ｅメール送信インターバルの変更

①メニュー項目の「NET Interval」を表示させて、[ENTER]キーを押します。

②[UP][DOWN]キーで目的の通信インターバルに合わせます。

③「Change? Yes,No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。

※１０分、６０分のインターバルに設定したときは、消費電流が大きくなりますので、ご相談ください。

（２）インターネット通信テスト

①メニュー項目の「NET Test」を表示させます。

②[ENTER]キーを押しますと、「Yes,No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して、[ENTER]キーを押します。

③通信進行バーが表示されます。テストメール送信に成功しますと、[OK]が表示されます。失敗した場合は「NG」が表示されます。失敗した場合は、通信設定及び電波状態を確認して再度おこなってください。

（３）通信契約の開始

①メニュー項目の「NET OTASP」を表示させます。

②[ENTER]キーを押しますと、「Yes,No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して、[ENTER]キーを押します。

③通信進行バーが表示されます。OTASPに成功しますと、[OK]が表示されます。失敗した場合は「NG」が表示されます。失敗した場合は、通信設定及び電波状態を確認して再度おこなってください。また、OTASPは、モジュールの通信契約が終了していないとできません。また、一度OTASPを成功しますと、OTAPAを実行し、通信休止後、再度OTA契約を行わないと実行できません。

（４）通信契約の休止

①メニュー項目の「NET OTAPA」を表示させます。

②[ENTER]キーを押しますと、「Yes,No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して、[ENTER]キーを押します。

③通信進行バーが表示されます。OTAPAに成功しますと、[OK]が表示されます。失敗した場合は「NG」が表示されます。失敗した場合は、通信設定及び電波状態を確認して再度おこなってください。また、OTAPAは、モジュールのOTASPが終了し、尚且つ休止申し込みが終わっていることが必要です。

（５）通信モジュールシリアルの確認

①メニュー項目の「Module Serial」を表示させます。

②[ENTER]キーを押しますと、「Yes,No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して、[ENTER]キーを押します。

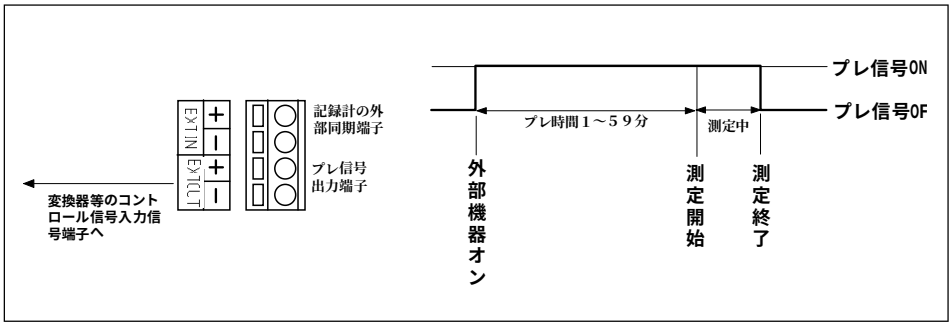
③通信進行バーが表示され、モジュールシリアルが表示されます。このモジュールシリアルは、モジュール通信契約に必要です。

５.各標準機能

５－１.プレタイマー機能

プレタイマー機能は、記録計の測定インターバルと同期して、外部のセンサーやアンプなどの機器の電源をオン／オフするための機能です。電源の必要な入力機器は、常時電源を供給しますと、電池の消耗を早めます。長期間の測定の場合、大型のバッテリが必要となってきます。そこで、測定時前にセンサやアンプなどの出力機器に測定インターバル前に電源をオンにする信号を出力する機能がプレタイマー機能です。

○測定インターバルを越えるプレ時間をセットしますと、接点出力は常にオンとなります。
○出力はトランジスタによる有電圧接点出力で、負荷により記録計の消費電流が増加します。
○オン状態のときは、負荷に電流が流れ続けますので、消費電流には注意が必要です。



５－２.外部同期測定

測定インターバル以外で測定記録動作を行う場合、EXTINの外部信号によって記録動作を行うことができます。外部からの同期信号で測定するときは、インターバルの設定を「EXTin」に合わせてください。また、外部同期端子の電気的仕様は次のとおりです。ただし、外部同期端子の入力は、フォトカプラで絶縁されています。

①入力電圧　2～25V
②入力電流　2～50mA
③ﾊﾟﾙｽ間隔　1秒
④ﾊﾟﾙｽ幅　0.1秒

５－３.RTC誤差調整機能

RTC誤差調整機能は、特殊な装置を必要とせずに記録計内部の時計（RTC）の進みまたは、遅れを調整することができます。この機能は、２０秒に１度、RTCのクロック数を変化させることにより、時計の進み遅れを調整しています。設定方法は、時計が遅れているときは現在の設定値を減らし、進んでいるときは設定値を増やします。

※増減値の１カウントの補正時間は以下の様に求められます。
・ＲＴＣクロック周波数　　：３２７６８Hz（分周比１／２で１６３８４Hz）
・１カウントあたりの分解能：１／１６３８４Hz＝６１．０３５１μ秒
・補正インターバル　　：２０秒

例１）１日に時計が３秒進んだ場合。
１カウントは、０.２６３７秒／日なので　　３÷０.２６３７＝約１１カウント
現在の設定値が１０の場合、１０＋１１＝２１を設定します。
例２）一週間に時計が７秒遅れた場合。
１カウントは、１．８４５７秒／週なので　　７÷１．８４５７＝約４カウント
現在の設定値が２１の場合、２１－４＝１７を設定します。

期　間	補正回数	補　正　時　間
２０秒	１回	１×１／１６３８４＝　６１μ秒
１分	３回	３×１／１６３８４＝１８３μ秒
１時間	１８０回	１８０×１／１６３８４＝　１０．９８m秒
１日	４３２０回	４３２０×１／１６３８４＝２６３．６７m秒
１週間	３０２４０回	３０２４０×１／１６３８４＝　１．８５秒
１ヶ月	１２９６００回	１２９６００×１／１６３８４＝　７．９１秒

５－４.ｱﾌﾀｰｽﾀｰﾄ機能

アフタースタート機能は、測定開始日を予め設定し、その設定された月日時分から測定を開始します。 但し、測定インターバルの設定により、その設定時刻に測定されるとは限りません。つまり測定インターバルを１時間と設定した場合、正時に測定される為、スタート時間を○月△日９時３０分と設定しても、測定は１０時００分まで行われません。

記録中にアフタースタートを設定した場合、設定時刻まで記録は停止します。リモート操作で一旦記録を停止させる場合に有効です。逆に誤ってアフタースタートを設定してしまうと記録が停止させられる為、設定操作には注意が必要です。

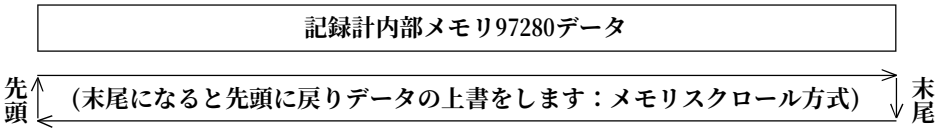
アフタースタート機能の停止は、測定開始日を全て０（ゼロ）に設定します。

５－５.データ回収

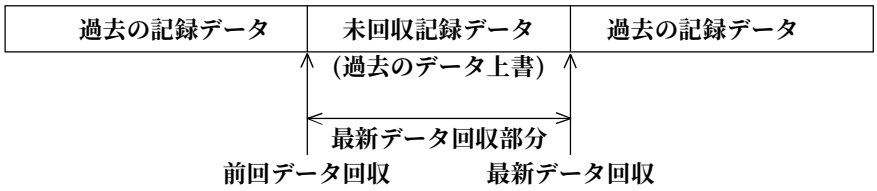
KADEC21シリーズは専用通信ソフトウェアで、最新データ回収または全データ回収を行います。それぞれの回収方法の違いは次のとおりです。

最新データ回収とは、前回データ回収した記録データの次のデータから現在までの未回収記録データを回収します。この方法でデータ回収をおこなえば、未回収記録データだけを回収しますので短時間で回収動作が完了します。

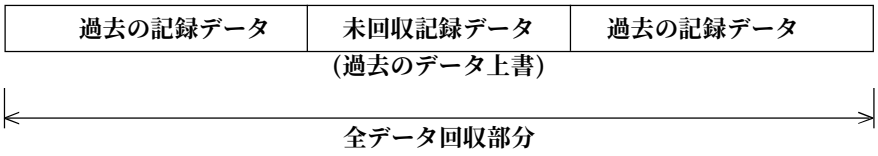
全データ回収とは、記録計の内部メモリ97280個すべてを回収します。この方法でデータ回収をおこなえば、未回収記録データに過去の記録データを含め記録計内部のデータをすべて回収します。過去の記録データは最新の記録データで上書きされない限り記録計に残っています。万が一、過去に回収したデータが紛失した場合などはこの方法で上書きされていない過去の記録データを回収することができます。



●最新データを回収



●全データを回収

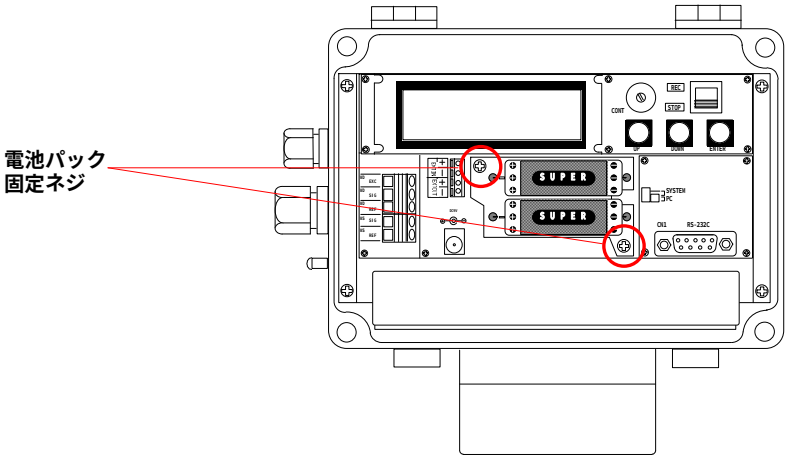


６.動作電池の交換

６－１.電池の交換方法

記録計の動作用電池を交換するときは、測定スイッチをオフにしてから行います。動作用の電池は、電池パックの固定ネジを緩めて記録計の基盤から取り外します。ただし、電池パックが２段重ねで取り付けられているときは、上の電池パックからと取り外してください。新しい電池パックを再び、記録計の基盤に外した固定ネジで固定します。固定ネジは、電池パックを固定する以外に電極の役割もしています。これは、長期間測定する間の接触不良を少なくするためです。

記録計の動作電池として、リチウム電池パックと市販のCR123A（カメラ用電池）ホルダを使用することができます。この電池を交換するときは、電池の極性を確認して電池ホルダに入れて固定バンドで固定してください。また、CR123Aを使用するときは、設置条件を十分考慮して、ご使用ください。



６－２.電池残量リセット

<u>動作電池を交換後、動作電池残量のリセットを、必ず実行してください</u>。もし、このリセット操作を行わない場合、動作電池の容量が有るときでも正確な残量計算ができず、少なく表示されます。また、使用動作電池のリチウム電池パック（KDC-B6）または、カメラ用電池ホルダを使用したKDC-B1のいずれかを正しく選択してリセット操作を実行してください。

ご注意

※（＋）プラス、（－）マイナスの極性を確認してから取り付けてください。
※電池パックを固定するネジを締めすぎないように注意してください。
※電池交換後は、必ずタイマー、カレンダーの確認をしてください。
※１年以上保管したときは、新品の電池に交換してください。
※数ヵ月間使用していないときは、リチウム電池が直ぐに活性化されませので、一旦通信状態にして約１～２分放置すると、徐々に活性化され電流が流れ始めます。

６－３.測定動作日数

KADEC21-UP-N2の各インターバルに対する最大動作日数は次のとおりです。ただし、記録計のメモリ容量を無制限としています。

	リチウム電池パック１個			カメラ用電池ホルダ１段		
ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	測定ﾃﾞｰﾀ数	測定日数	測定月数	測定ﾃﾞｰﾀ数	測定日数	測定月数
１分	約352,710	約244日	約 8.2ヶ月	約176,355	約 122日	約 4.1ヶ月
１０分	約 38,213	約265日	約 8.8ヶ月	約 19,107	約 133日	約 4.4ヶ月
３０分	約 12,817	約267日	約 8.9ヶ月	約 6,409	約 134日	約 4.4ヶ月
６０分	約 6,418	約267日	約 8.9ヶ月	約 3,209	約 134日	約 4.4ヶ月

ご注意

※表中の数値は、新品電池で連続間欠動作を行った場合です。１分以下のインターバル動作のときは連続動作になりますので、約３.５日で動作電池が消耗します。

※センサ、通信および表示器の動作消費電流は、含まれていません。
※カタログ上のリチウム電池パックは、２０００㎃hですが１８００㎃で計算しています。
また、二酸化マンガンリチウム電池（カメラ用電池ホルダ）は、９００㎃hで計算しています。
※二酸化マンガンリチウム電池（カメラ用電池ホルダ）の動作温度は、－５℃～４０℃の範囲内でご使用ください。

６－４.リチウム電池概要

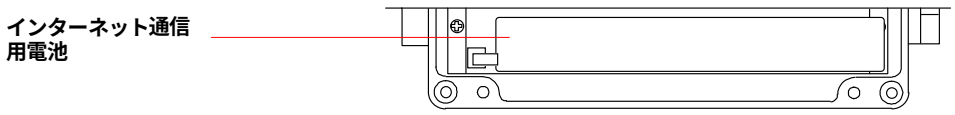
リチウム電池パックに使用されているリチウム電池の仕様および特徴は、次のとおりです。
※放電中の内部抵抗変化が少なく、放電電圧は放電末期まで平坦。(ただし、軽負荷放電の場合)
※ＥＲ６の場合１００μＡの放電で高容量（2000㎃h）、高エネルギー密度（970㎽h/㎤)
※従来の電池で対応できなかった、－５５℃～＋８５℃の極めて広い温度範囲で使用可能。
※ﾊｰﾒﾁｯｸｼｰﾙによる完全密閉方式、自己放電も極めて少ないので長期間の使用が可能。
※安心して使用できるＵＬ（Underwriters Laboratories Inc）の部品認定品。

６－５.過度最低電圧

リチウム電池の自己放電が従来の電池にくらべて著しく小さいのは、負極リチウム表面に保護皮膜が生成し、正極との反応を防いでいるからです。微少電流の放電では、この皮膜の中を電流が流れることができますが、大電流を流すにはこの皮膜が破壊されるまでの間は、保護皮膜による内部抵抗のため、閉路電圧が一時的に低下します。その時の電圧の最低値を過度最低電圧と呼んでいます。この現象は一般的に温度が低いほど、また負荷が大きいほど低い電圧を示します。

６－６.通信用電池の交換時期

Ｅメール機能を動作させるための専用電池は、スーパーリチウム電池です。この電池が消耗しますと、インターネットへの接続ができなくなりますので、電池交換を行なってからインターネットへの接続の操作を行ってください。通信用電池が消耗した場合でも、動作電池の残量が有れば測定動作には影響有りません。（通信用電池はオプションです）



７.機器仕様

７－１.入力仕様

（１）入力点数	１ﾁｬﾝﾈﾙ
（２）入力種別	電圧積算入力
入力範囲	0～10mV DC/0～±10mV DC
分解能	0.01mV
積算誤差	±0.2mV
積算方式	アナログ連続積算方式

７－２.記録方法

（１）測定ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	10、12、15、20、30秒 1、2、3、4、5、6、10、12、15、20、30、60分
（２）記憶容量	97,280個（約675日分/10分間隔）
（３）記録内容	1要素の1ﾃﾞｰﾀごとに日時/入力要素/ﾁｬﾝﾈﾙ番号を同時記録 メモ数　:6個 文字数　:16文字 取扱文字:ローマ字、カタカナ、記号 ※操作キーで登録設定ができます。
（４）記録方式	メモリスクロール方式
（５）使用メモリ	不揮発生メモリ（バッテリバックアップ不要）

７－３.通信機能

（１）通信方式	RS-232Cシリアルインターフェイス、モデムコントロール機能付
（２）使用コネクタ	DSUB9ピンオスコネクタ（パソコンとの接続はリバースケーブル、モデムのときはストレートケーブルを使用してください。）
（３）通信速度	300、600、1200、2400、4800、9600 19.2K、38.4K、57.6K、115.2KBPS（通信速度38.4KBPS以上は使用条件によっては、通信できないときが有ります。）
（４）通信用電源	内部電池使用または外部電源使用は切替スイッチによる選択 （モデムまたはネットワーク通信時には、外部電源使用に切り替えてください。）

７－４.Ｅメール機能

（１）送信ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	10分、60分、24時間
（２）通信方式	CDMA2000 1X パケット交換方式 上り14.4kbps、下り14.4kbps
（３）送信先	通常データ・警報データ各6箇所
（４）アンテナ	RFコネクタ（外部アンテナ）　インピーダンス50Ω

７－５.表示と操作

（１）表示器種別	キャラクタLCD表示器
（２）表示範囲	16文字×2行
（３）動作範囲	-20～70℃（90秒以上操作キーによる操作がないときは、自動的に表示はOFFになります。）
（４）設定キー	押しボタンキー3個（UP/DOWN/ENTER）
（５）測定スイッチ	スライドスイッチ1個（[REC]測定開始/[STOP]測定中断）
（６）調整ボリウム	LCD表示器のコントラスト調整（-10℃以下では、表示がうすく表示レスポンスは多少低下します。）

７－６.その他の機能

（１）ﾌﾟﾚﾀｲﾏｰ機能	記録動作前に外部機器の電源をON/OFFする機能です。 設定可能範囲は1～59分（初期値はOFF）
（２）ｱﾌﾀｰｽﾀｰﾄ機能	指定した月日時分から測定動作が開始します。（初期値はOFF）
（３）RTC調整機能	タイマー機能の進みおよび遅れの調整を行うことができます。 （タイマー機能は動作電池およびボタン電池でバックアップ）
（４）電池残量表示	内蔵電池の残量を計算によってLCD表示器に10段階で出力します。 (電池交換時には残量リセット操作によって満タン状態となります)

７－６.電　源

（１）消費電流　　測定時動作電流:16mA（表示器OFF時）
19mA（表示器ON時/センサ電源を含まず）
スリープ時電流:0.28mA
通信動作電流　:21mA（通信ポートから電源供給可能なとき）

（２）使用電源　　リチウム電池パック（KDC-B6:ネジ固定方式）
カメラ用電池（CR123A）
（カメラ用電池使用時の動作範囲は-5℃～40℃の環境下で使用してください。）
専用ACアダプタ（DC9V）

（３）ネット電源　　スーパリチウム電池パック（オプション）

７－７.その他の仕様

（１）搭載OS　　I-TRON（リアルタイムOS）採用により各機能が独立して動作します。

（２）動作環境　　-25℃～+80℃（通信ｶｰﾄﾞの仕様に依存）

（３）寸法／重量　　175^{W}×125^{D}×75^{H}/800g（突起物・アンテナ含まず）

8 .概観寸法図